

# あいち病害虫情報 最新情報

令和5年9月15日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## 向こう1か月の気温は高い見込み

名古屋地方気象台9月14日発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、特に期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。なお、降水量及び日照時間はほぼ平年並の見込みです。

## 水稻の病害虫

8月下旬の巡回調査において、トビイロウンカの発生は確認されませんでした。また、予察灯においても現時点までにトビイロウンカの誘殺は確認されていません。

イネ白葉枯病の発生が県内の一部のほ場で確認されています。本病の病原菌は水田畦畔のサヤヌカグサなどのイネ科雑草や被害わら等で越冬します。今作で被害が目立つ場合、次作の伝染源量を減らすため年内の耕起や、次作での育苗箱施薬等の対策を検討しましょう。

## ダイズのチョウ目害虫の発生に注意！

安城市のダイズほ場に設置したフェロモントラップでは、ハスモンヨトウが多く誘殺されています。また、西尾市では、ハスモンヨトウ及びシロイチモジヨトウがやや多く誘殺されています。8月上旬の巡回調査で既にハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウの寄生、ハスモンヨトウによる白変葉を確認しています。詳細は、9月13日発表の「令和5年度病害虫発生予察注意報第9号（ハスモンヨトウ）、第10号（シロイチモジヨトウ）」を参照してください。

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、西尾市ではやや多く、安城市で平年並、豊田市では少ない状況です。本種は莢に食入し、子実も加害するため、今後の発生状況に注意しましょう。9月1日発表の「オオタバコガ情報第2号」も参考にしてください。

## ダイズの吸実性カメムシ

吸実性カメムシの発生量は8月下旬の巡回調査においてやや多い状況でした。向こう1か月の気温は高いと予想されており、本種の活動に好適な条件となる可能性があります。また、水稻収穫済みの水田から近隣のダイズほ場にミナミアオカメムシ等が移動する可能性があるため、子実肥大初期（開花30~40日後）に防除を行いましょう。詳細は9月1日発表の「吸実性カメムシ類情報第1号（ダイズ）」を参考にしてください。

## 果樹カメムシ類の発生に注意！

果樹カメムシ類の予察灯における誘殺数は、豊橋市においてやや多い状況です。向こう1か月の気温は高いと予想され、今後も果樹カメムシ類が活発に活動し、果樹園への飛来が増加するおそれがあります。詳細は本日発表の「令和5年度病害虫発生予察注意報第11号」を参照してください。

## 果樹の病害虫（果樹カメムシ類以外）

ナシヒメシンクイのフェロモントラップによる誘殺数は一部地域でやや多い状況です。特に豊田市では8月第5半旬から急増し、平年よりも多く誘殺されています。秋季はナシほ場への成虫の飛来が続くことがあります。収穫の早い品種で被害が見られた地域で今後収穫を迎えるほ場では収穫前日数に注意し、防除を検討しましょう。

ブドウベと病については、早期落葉および次作の越冬伝染源量を減らすため、収穫後にI

Cボルドー48Qなどで秋季防除を実施しましょう。また、罹病落葉が次作の第一次伝染源になるので、落葉は園外に持ち出し適切に処分しましょう。

モモせん孔細菌病については、病原菌が枝や落葉痕部の組織内で越冬し次作の伝染源になります。枝病斑の除去やICボルドー412などの農薬散布による収穫後の秋季防除を実施しましょう。

## 野菜類、花き類のチョウ目害虫

### ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガが多い！！

ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガの9月上旬の巡回調査において、キャベツほ場での幼虫の寄生株率は、平年と比較して最も高い状況です。詳細は、9月13日発表の「令和5年度発生予察注意報第9号（ハスモンヨトウ）、10号（シロイチモジヨトウ）」を参照してください。オオタバコガのフェロモントラップにおける成虫の誘殺数はやや多めで推移しています。9月1日発表の「オオタバコガ情報第2号」を参考にしてください。

ハイマダラノメイガのキャベツほ場での寄生株率は、9月上旬の巡回調査では平年並の状況です。育苗中や定植直後に食害されると被害が大きくなるので、早期発見に努め、防除を徹底しましょう。

コナガのキャベツほ場での寄生株率は、9月上旬の巡回調査では平年並です。ほ場をよく観察して、早期発見に努め、防除しましょう。

## アブラナ科野菜の細菌性病害

黒腐病、軟腐病等の細菌性病害は降水量が多いと発生が増加します。また、植物体の傷は、病原菌の侵入口となるので、激しい風雨によって傷ができた場合や、害虫の食害痕が多い場合も発生を助長します。向こう1か月の降水量は平年並と予想されていますが、近年局地的な豪雨が多くみられます。激しい風雨が予想される場合は、事前に農薬を散布するとともに、排水の悪いほ場では排水対策をしましょう。

## イチゴ炭疽病

イチゴの炭疽病は、7月下旬の巡回調査で発生量が多い状況でした。炭疽病は、気温が高いと発生が助長されます。向こう1か月の気温は高いと予想されているため、注意しましょう。また、炭疽病は風雨で周辺に拡大するので、育苗ほでの発生がある場合は、発病株は速やかに処分しましょう。発病株の周辺にある株は症状が無くても同様に処分しましょう。定植には発病株や発病が疑われる株は絶対に使用しないようにしましょう。本ぽで発生を確認したら、速やかにほ場外へ持ち出し、適切に処分しましょう。

## トマト、ミニトマトの黄化葉巻病、黄化病

トマト、ミニトマトでは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルスを媒介するタバココナジラミやトマト黄化病の病原ウイルスを媒介するコナジラミ類を防除するとともに、感染株は発見次第抜き取り、適切に処分しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室  
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820